

横須賀芸術劇場少年少女合唱団

「訪問コンサート」 in 特別養護老人ホーム「ヒューマン」

2013年5月18日（土）14:00 開演

指揮 武田雅博

ピアノ 淵上千里

合唱 横須賀芸術劇場少年少女合唱団

普段劇場まで、お越しいただく事ができない地域の皆様に、横須賀芸術劇場少年少女合唱団の歌声を届け、音楽を通じた交流を図っています。その6回目となる今回の訪問コンサートは、横須賀市佐島にある特別養護老人ホーム「ヒューマン」へ行きました。

大きな窓からは、海が一面に見渡せる開放感あるロビーで、中学1年生～高校3年生37名が入所者の方やデイケアの皆さん約60人の皆様に前にミニコンサートを行いました。



まずは、自己紹介！

「皆さんの心に届くように、心を込めて歌いますので聴いてください」と団員があいさつすると、お年寄りの方からは、「ありがとうね」という温かい掛け声がかかります。



団員たちが、それぞれの曲紹介をし、コンサートは進んでいきます。『宵待草』『早春賦』『モーツァルトの子守歌』など全部で10曲を演奏しました。



交流タイムでは「歌は好きですか」「今日の私たちの演奏はどうでしたか」「お孫さんはいくつですか」など会話が弾みます。お年寄りの皆さんも「若い人と話しができて元気をもらえるわ」とうれしそうにお話をしていました。

交流タイムの後は、みなさんと一緒に「ふるさと」を歌いました。みなさんの大きな歌声がロビーに響き、和やかで、とても暖かい雰囲気会場が包まれたようでした。

アンコールに、もう一度聴きたい曲はありますか？との武田先生の呼びかけで『早春賦』を演奏。最後に合唱団が演奏会で必ず歌う「元気に笑え」を皆さんの元気な手拍子とともに演奏しました。

訪問コンサートでは、歌が持つ力を身近で感じることができます。お年寄りの方たちの笑顔と子どもたちの笑顔。歌を聞いて涙を流すお年寄り。それに応えて、さらに心を込めて歌う子どもたち。音楽は心を温め、人を元気にする力が本当にあるのだなと改めて思う瞬間です。

横須賀芸術劇場少年少女合唱団では、今後も訪問コンサートを実施し、地域に根ざした活動を続け、歌の贈り物をお届けしていきたいと思ひます。

【団員の声】

私にとって4回目の訪問コンサート。毎年歌詞を覚えるのに苦労していますが、とても楽しみにしています。

劇場での公演と違い、聞いて下さる方の顔がよく見える訪問コンサートでは、良くも悪くもハラハラドキドキの連続です。お年寄りの方の心に響く演奏ができるだろうかと、今回も不安で一杯でした。

そんな中で一曲目の「早春賦」を歌い出したとき、最前列のおじいさんが手で涙を拭いたのが視界に入りました。

ああ、届いた！そう思いました。すごく嬉しかったです。やっぱり歌ってすごい！改めて実感しました。

また今年度も様々な公演がありますが、あのおじいさんの心に届いたように、一曲一曲を聞いて下さる方の心に届く演奏をしたいです。

(Sクラス 高校1年生)

訪問コンサートは定期演奏会には来場いただけないお年寄りの皆さんに、ゆっくりと私たちの合唱を鑑賞していただける機会なので、いつもよりもより丁寧に歌いたいと思ひ参加しました。今回歌った曲目は「アヴェ・マリア」や「歌のつばさに」などの世界の名曲と「早春賦」や「宵待草」などの日本の名曲でした。日本の名曲ではお年寄りの皆さんのなかに題名を聞いただけで反応された方もいて、歌っている最中も口ずさんでいらっしゃる方もみられ一層大事に歌わなくてはと思ひました。交流タイムでは和やかにお話ができて楽しい一時を過ごすことができました。終盤にお年寄りの皆さんと「ふるさと」を歌ったことがこの日の思い出となりました。

大きな劇場ではないのでお客様の顔がはっきりとみえて歌もダイレクトに伝わると思ひ、いつもと違う緊張感が湧きました。とても貴重な勉強をさせていただいたと思ひます。

(Sクラス 高校2年生)